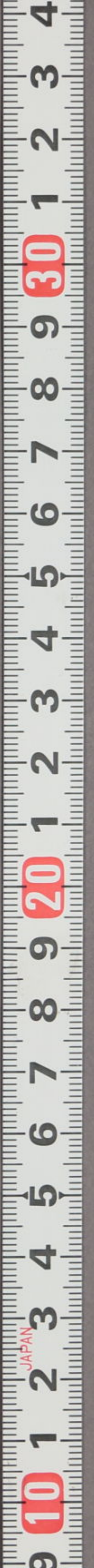




蘭卷驚奇使客傳
編五
三

~ 13
3156
19



3156
19

さうぢのじ

夫のよめは

其よめ

さうぢのよめは
雲津末
梅宮

開巻驚奇俠客傳第五集卷之三

浪華 蒜園主人編次



平治 想

第四十五回

怒と宥めて守護再策と議と
義と忘きて緞紳偽使と做る

話説島山持永の豫ての志願成就と今宵姑摩姫と迎へ拿んと想へ漫ぶ
魂漂蕩て鬼狂きまごぬ。怡悦真頭も只管家人們を急送し立て佳禮の
準備と噴促を小原是富う家もまた志小足ぬ東西のぬと家隸の
恭勝媒鳥們と幾々の懸兵の。開餘の名もる奴隸們も長統の袖の
侍女とてもひらひら。津由と父小報て。侍婢幾名も京都より美麗を擇て下
さへく。豫て料ひらうらふ。就盛が密意のて。俄然期日と縮めさへ有敷
人々の婢と闕て。就盛小商量せし。就盛就ち自家の侍婢們を多く送せし。

そのひらんぎ やくみてうまきさうて つか
 當日皆儀の役小充。且又俺属小隸らまらう。島山家の家人們小巳が郎黨とさ
 加へ玄関向の緯と執せらまらう。なほ不足もあらうか。なれども。うとて馴らう緯
 ららぬが。彼以侶小捫拵と。島に沸か一般あると。持永連ぬ焦燥て。式の如く辛かく。
 重昏迄ふと準備し。且赤阪の館に前小轎子稟拿べき假全戸と設け。木造本
 泰勝小峯田譽九郎と相副て。稟拿べき役者と。另ふ兩名の頭人小夥兵幾個と
 属へ。武器嚴しく十字警固とさせ。館の前門まで大箒と燃連ぬ中門より
 轎子と納べき。地道ゆい毛禮と舖並書院の潤色洲濱の結構。媳婦君の子房。侍
 女の局舎。寢殿の打点ふままで。光るが如く経管する。情景宜く想像べし。待女賜
 専女の役とて。長総是と職とて。垂髪小粧ひつ。新小祝ひ。小衣手と着飾と。襦衣
 和ようふ着做る容体有繫小鎌倉の寵臣ららう。藤白隼人正安同が妻の果と
 有るまは。進退さ朽惜らうと。物孰負ふと振まひる。其他の遊佐が館より。今日し

来たる侍女們なれど。這里と晴と打紛らまらう。人跡希らう。片山郷も。花と紅葉と
 一時小咲匂ひる心地せう。閒話不題。就盛職分の重々まらうと。孫持媒鳥と媒
 約の名代らうと。正直が河備の館へ差らう。自己の黄昏う。城と出て。赤阪の館に室
 りと萬事を指揮し。甲夜過る比及まで等とも。音もせぬが。持永の更らう。就盛
 る等説て。且不審も想ひまらう。人と差して。覗するふ。河備の館も混雑と。詳さ
 光景も知さされ。孫持媒鳥と喚出て。怎めくと催促するふ。辛らうと。夜半
 過る程ふ。松明の光多く所看て。陸續とて来ふまらう。遠看ぬ出く。奴隸們が
 次第小報らふ。持永就盛禮服小改め。等が問らう。新夫人の轎子に假舎の着
 ぬ。河備の家長湯浅敦義。今一名の侍と作法の如く。轎子と遞す。泰勝譽九郎立出。局
 小上臈の轎子まで。悉く稟拿て。きて。新夫人の酒盃と。賜分式も果のまらう。就義の回
 べきと。枕蓑勝們が。事あり。館内まで。隸の行ぬ。媒鳥の門前。下馬して。案内小

立六畠山家の轎夫の轎子と拾げて徐々進み入る浦風の小上賜の局女と共に
 小引添て歩む長総們出迎へ豫て構へ子房の内へ案内せしむ新夫人の轎子
 と下て扶掖し那裡へ入て憩ひし。長総其餘の女房ども開次下の間へ侍りて萬の
 等と執賄へ浦風局女阿婆と俱小新夫人の傍に在て準備せしむ蕭々顔の些
 少も露まきと進退のあやうに武家小生音撮裙捌け現も姑摩姫かぐと想ひ
 小多々長総們へ偷看せんも有繋そ低語ふせて居るる。持永の念ひも
 て先疾透看とせん念へ縁側傳ひみ竊ひ来て窓の障子と唾の濡し密指
 せ穴隙と穿ち窺ひ看ども浦風が快くも心と利せ。屏風と和ら押詰て障
 子小引廻らしうらるる者ども看み後徒小靴を隔て痒と搔く心地のしと為
 術もつれ就ても看んと俺さう。噫ゆさく益さうと。眩きあう技足と退き
 出とてる小同意念の木造泰勝假全の役れ竟ると即て走回ると物蔭る。那

千里鏡の裡所看う。美人やあつと覗ひ小被衣小面省も見えど他とハ
 無比女人と看ておぼろろきり云べくもあつと。同く這裡小竊ひ来て。犹克偷
 看せんとも。撞見頭小持永と不像首と昭着と。涙と駭き眼より火の出まで
 小覚ゆとと聲とも揚得と。偷音小木小欵と透し看む。這へ令即君々念地へ出
 まる一向小御免と被るべと平張俯ても真箇中陳謝る声々憎々と持永ハ俺
 と忘るまで小心花開け折柄るま。怎でか各ひきき痛苦と笑小混らして己が
 子舎へ退まると。介程小就盛ハ持永と伴ひて威儀と正と立出。媒鳥風
 焼八郎と喚出して新夫人小悠々と听えさす。若子ハ長総們小伴と浦風と引
 て主位小着持永ハ客位小坐して互の口誼言寡小室町様の三々九度浦風が酌小立て
 儀の如く小竟々。其次ハ席と更て持永就盛ハ芳と謝し。酒肴と換て管待ハ就盛
 も祝言と陳て媒鳥泰勝風焼八郎們と召出て各々慰めつ。聲も稍高くる

まぐ酒を吃せて恰好遊佐の城へ回去風焼八郎敷義も河備の館へ回らう正真
 今宵の首尾を脱る注進くうを却説持永の衣服を換侍女們小扶掖して
 新婦の閨房小入て着るふ赫たる一燭も悉く消果て壁小背たる孤燈の下小
 小上臈の浦風が畏る侍でうと持永顧みて這の不意き因縁で你們も親く
 さぬと會尺もさう手と拍鳴して噫反暗き所へ快疾燭火を拿來とと大音小
 罵ると浦風の推禁め姫への所勞坐せと今宵の御佳禮然ども稟難く押て
 出立るふ頼る即君の御意めて聊ちん儀式を畧るふ唯疾寝てらるる
 最大人びと所見もども女子の執も裏慚しきの小侍は開のふ御所勞も
 出ふこそと笑を合とひひる持永も打笑ひ和女郎が然るは道理の俺も少
 所勞氣もさる床上の献酬の和女郎と這て果きん飲と酔う俣小唱と遺言
 て不覚小戯とつ長総小酌と把とて又四五盃と傾けう若子の教悔らるる

世俗の習不
 床盃とのふ
 例る俗儀を
 伊勢土の
 雜記小の
 今應永中の習
 只滑筆の
 看官筆の告
 するふかき

如く衾衣の中小蹲して息も做て居るうと持永の羞観き忘てや然るる
 物愧しふ這首へ出て唯一つ吃るやと舌疾ふへと回合とせで在るふ肛裏小
 思ふや現姑摩姫の智勇小秀の婦女とて男女の情の未得知未通女子れ
 へ羞愧さふこそそのもと思へ強ても哄誘さる恰似中と長総們と次席へ出立
 て去とて長総の酔う俣小ヤヨ令即る年来のふ所勞も遺漏る今宵の晴き
 ろひもか羨るやと高り小戯弄て出ると持永の所態と打笑つ袴と脱と浦風
 押疊ひ開間小和ら屏風と曳用て入らうと躊躇て傍の行燈を挑んとと浦
 風快く意得て開い又妾小任せると曳めの様を揺消ハ噫やと嗚鳴する持永
 と弓箭庭小手と把推遣て竊やう打笑ひ間の紙門と押用て疾く外面へ出らう
 持永の搔搜寄て同衾小入て着る汗も若小卧居ると只姑摩姫と思ひらる
 醉小任せ愧と忘とて年来日來の繋想の限とと長々と説連けと恰も瘡物小

ア、カサシ
馬モガ
アラハレ
メモウ
イナバン
シテホシイ



昆王一夜
變化瓦礫
まきやまきやいの木の葉の
そひらけりていりちのり

伊勢傳第五卷三

三十三

障るが一般漸々小慰めければサ早も時小賢ひさ婦女をば怙す小愛憐と所知節
 も有小豫て姑摩姫と蕩まんそ。那裏哀が搜けり。随喜破負香と薰せしむ。然火連小
 發動と堪ぬる小覚まど只覚らまどと物言と徐々小身と未女子をば持永頻
 小意と操て雲とさう雨とさう。終小夫婦と成小なり。持永の食間より心勞さ小立漆
 て酒の酔酷く上とさま前も知と寝さう。不圖夢寤て四下と看まど窓小朝陽
 の差登まて辰の半刻も過ぬと看ゆ小急忙く身と起。但見が新婦の前夜の
 依小傍小卧て在るど。卒と差覗きて覗へ。這をも如何姑摩姫と只麼念ひて。
 偕老の合色と結ひ新媳婦の額大く口方やと頬え高き合のを。哄ふ山下風
 小吹散と龍田の山は紅葉と。看るるなるの瘡瘡の瘡向くある小白粉と施し
 うる光景の譬喻つづくもさ形容も呆了こそ半响ぐり。物も言とて居さう
 ぐ。忽地涙吐ひすて小怒氣憤然と湧上まする苛疾き聲と掉た絞じと這奴抑甚麼

的めるまば咱わ這こ便室のへ偷入り。快く起ちと罵のて背と礎と打うりま駭
 きかつ起直ちをを犹な克くとを去こ給との冬河備の館と酌し立たうる黑暗てん天や
 戸隠山の鬼女と念ひ正直の女見サ早子であります持永再遍肝と消し。和ま
 怎の縁故と以て俺寝所在やらんといどもサ早子の口へ羞らひて回る口とを不ま
 りらるる屢噴て止まうる。物音と听て浦風の紙門とを推開て徐々と持永が身
 邊に衝居て手と束ね。即君を眼とを寤させるふら。姫も起ませるふらと。
 空知ぬ顔のひらと見て。持長急に脊を顧つ。やや女此是は姑摩姫とぞを念やして
 かるる醜女と吾閨房を率りと末す。這は正直が料理を但し誰か付け
 ぞ快く姑摩姫と出まさるや。と敦圍を猛く罵まと浦風の騒ぐ氣色もるる。姑摩姫
 殿非どを念やして知せるるぞ。といせも果を持永の表を握りと眼と睜り。這
 女奴が大胆なる。嚮小正直が山亭より。千里鏡以ては慥小看着。姑摩姫の沉

伊勢傳 卷三

魚落雁閉月羞花の美人。ふかく醜悪き女を送りて誰らん開と實とせん。此是正直が宿所と一遍會う他が息女の苦姫とぞ忘あして。闇夜も者混んやといふ浦風些とも怯まは姑摩姫どの非とよしと既不知せり。更小奴家小誰人と問せりやうも。と半分論せは持永ハ可黙女奴辱くも。院宣御諛の故と以て持永が妻小賜へ。楠姑摩姫と暗々小換へ。無慙の白痴と未せり。とて這依小津浪と想ふや抑誰が較計て這企とば做ろと。真直小白状せよ。稟び目小鬼者せんと擬勢綱で責詰る。浦風ハ尚も臆せは。開へのまのり。河備の御息女と娶らせり。與人與小とて河備のちん宿所へ納采と贈る。一上。河備の御息女と嫁。ハ當然の理。と今更醜悪とて。罪あるは畏憚る。仰ともおぼえたり。とと听て持永怒不堪と。任他餘の滓ハ左まれ右ま。院宣御諛と蔑如を。罪

科を弘き。正直一家滅亡せり。疑ふは。その胸想識べき。婦人と敵手小論矣。却也無益の至。快々出て去。と衣と整立て踊り出。媒鳥や。と換立。と。孫持媒鳥ハ甚麼滓や。と出て来ると持永ハ看と等。と聲と勵ま。想ふ違ひ。大變あり。快々馬と牽りて来。遊佐の城へ赴きて。今急。と譚せん。和郎ハ夥兵小戎具とせ。俺着長も拿持せ。疾く那里へ瀆くべし。委曲の情由。那里まで。説も听せん。急げくと連小屬く下知す。媒鳥ハ甚麼とも辨へ。と。推回くと問へ。擬勢する。と。隨小馬小鞍措き。快椽前小牽立。う。持永ハ刀と。把跟より瀆け。と。一鞭られて。暮々地小遊佐の城と馳驅出。媒鳥ハ猛可小着急慌忙。夥兵十名小腹卷させて。持永が鎧櫃を。奴隷们小扛擔を。その身も鎧把て。投懸。喘ぎくと追。就盛ハ。とも知。日高く起て。徐小朝餉と果せ。頃接待の若党。赤段の火急。御用ありと。未

とうと報る小就盛不審さるる客殿小請と忙しく袴を着て出會うる座小も未着
 以程小持永の聲繫てり小貴老持永と什麼の與詐して恥辱と手へらさるる
 氣色と変て罵る小就盛ハ思ひも係るハ驚きて在下不肖の身もいとも申恩と被る
 管領家の即令息小對しなう。怎で鹿畧と存せき開亦何等の緯あふふ色藏と
 仰らるるといふ持永息接敢と流る汗と推拭て補姑摩姫と要んとて貴老
 嫌ゆせられふ怎やと正直が女兒の醜婦と送來とて恥辱と手へらさるる持
 永愚昧ると雖ども怎ぞ昆玉と燕石とと女令さるる按小貴老も正直と膝合せて
 咲るる回る因て存る音あり。如何ぞと膝と前めて礎と睨き無念の顔色
 打も果さん光景小就盛も大駭き開ハ又意外の椿事へ你も知せあふ如く在下も此
 属る。意と盡して申嫉妬の全く成就とせざる小本走せしを怎ふとせざる騙計
 と構んぬ省惟ひても見あふ。父祖代々申被官として什麼憚も申蔭小依ぬり

うき。在下が志中と然様の不忠と致すに按小姑摩姫が机変ふて正直
 と欺詐して恁る詭計と構るるん放且丹心を鎮めらひて萍の始末と
 詳小所紀と後小又愚妄なれむらひらと。之ハ持永幸らして面と些少和
 らげて有る序次と話説と。かく欺るる上るハ快々河備へ押寄て正直が白
 髪首と拿でやハ措るべき貴老倘他と同意さるる加勢と後と語らよ。
 既小媒鳥小戎具させ門邊小等せ措るる直小那里へ赴くべと立んと
 する。就盛ハ着忙しく推禁めあん腹立ハ理さる。正直ハ小身とせども御直
 泰の的を伺はどして私小誅らるるあん身上小疎忽の祟ハ道とるらと。されハ
 且正直と喚寄て仔細と問ひ開ふて思者小任するとも遅き是非と倘きり胸
 小就盛も恁でら外小着ん必あん先隊仕るる。萍を引も問ぞと。結果ん
 ハ宜しうと。只管在下小任せると頻小諫めて止まら。持永漸々怒氣と押へ

然らば目今正直と這首へ喚て弘明も在下の家小回るとも。面白うは這里
 小在て始終の事を窺はん。倘正直が詭計あるが即時小免し稟さざるといふ就
 盛稍安堵して就て譽九郎と喚出して河備へ差て正直と喚り。持永は別室小て
 朝餉と出して管待多し。却説楠正直は若子と出遣う後心も心も限り
 るほど。今更壽策の出すと知れば。只得木石と相對ひて回らぬ悔の噂の爲
 つ居る。小暁天候敦義が回来て。那里の首尾の好す事と云々と報し。此
 此ハ心安堵して。尚亦露頭して。持永が怎ふ人んと念へ。いづ安
 くらと枕小着ても熟睡する。既ふ今夜ハ明果され。快起出て朝餉と果し。
 又木石と同律と論出で。のとも得在る。近侍の的も分付て。赤阪の方へ出差す。那
 首の動静と視ふ。要時して立回り。赤阪なるハ只一騎馬と飛せて。方僅遊
 佐の城へ出る。ぬと。報る。正直はこれと。猛可小律の出来。如く心を冷して居

る處へ就盛が使者。譽田譽九郎と名告て對面せんと。いひ入る。驚破と想ふ
 心と静めて出で。これ小會する。小譽九郎ハ就盛が口状と述。且夜前の督姻と祝
 し。さて火急小御商量の旨の目今在下の方へ来らる。といふ。正直ハ驚駭
 げと去で止べき勢さる。就開へ参る。とて譽九郎と曰。差件當と催して。さて
 木石小恁々と暗々小告て。怎と申すも。就盛が火急小喚ハ好意小あり。時且小依
 大愛小。暨はん。律も計ざり。さうとて。今將如何せん。さうば能意得。といひ。棄て出
 去。木石も今更ハ危殆き物と念へども。差てハ律の落着とべき勢さる。とて。小
 得せ。念難。額小手と當。正直ハ後影と。要時目送て居る。さう。正直ハ馬と疾
 めて。遊佐の城へ去て。看ま。玄關の傍邊。後持媒鳥が夥兵ども。小手脚當小。腹
 巻して。各々戎器と携へ。今律有んといふ。容体さ。十分小鬼胎と抱き。原來
 持永就盛們前夜の事を憤て。裁きとて。量り。さう。若子ハ既小死。う。泣きも知

らふか怎ふもして明を陳謝はるるを悔き事と為てうと歎けど今乃為術なるを眼隨
 小立る敦義の萍の意と心得を案内とせしめられ接待の若党出迎へ疾く客舎
 通らう。正直適来も討て出づるやと眼と配せど殊更奇異き様体も見え
 さま右見左見て難難て尋思ふ心と悩と折らう。就盛出て對面。正直と近く
 招き。今且持永がいつる由と箇様々々と説出て貴方の什麼と念ひて信様の
 事を謀らむとぞ。説ても著き萍ながら今番の誓姻の私一家の事ならん院宣説
 意の故を以て不肖なれども在下が媒妁と勤めつる所。脱落ありて上へ對して
 稟解べき由あり。さま右左馬殿の貴方と打ち果えんとて立腹わりしと辛らじて
 在下が推止し一回貴方仔細と問て開えんと怎生とも進退せんと宥め措らう。
 按ふ身は姑摩姫の姦計の抑又貴方の詐偽の知れども回答依ては自他一家
 の滅亡とる萍ありと。面色變ると見えども正直の是と所て面色土の如く膝

之戰慄して。預て右のまん右のまん。と惟ひ萍すら一句も出後。唯一向小頭と下
 左馬介殿の立腹も貴老のまん疑難も一箇として理らむとどのかあり。そま
 想のぬぬありども。如何せん俺姪女の前夜猛可小釣と違へて箇様々ふひ
 争ひつども為方らう。在下も自殺と分解せんとして。姪女が又推禁め
 て。恁做と誨へるを。荆妻が諾ひ料とて。女兒を以て赤阪の館へ嫁遣らうと
 首より尾まで此も藏の姑摩姫の説と。由り。庚帖と。把換らるる萍由も
 食推出て。明々地地。演尽らう。只菅小怠状する外らう。就盛の熟所と駭
 呆とて舌を振ひ肛裏小思惟やう。意外小出らう。姑摩姫が。神出鬼没の謀
 畧の豪表まとう及ぶるもあらば。那庚帖と豪表の只麼姑摩姫が本命と思
 ひて是を調伏し。且その合巻を祈らう。法驗さきふら。案小違ひ。若
 姫と祈り伏て持永が。妻小定めらるる。さうふても。姑摩姫の怎る。故院宣

御説と矯る律と知らるる人是と按へ現他の神変不測の幻術ありき。
 然而正直が罪を以て京都へ訴出んも。院宣御説と偽らるる罪の這方も係
 るべく且の嚮小満家小諾ひ置る律もあま露頭さる悉く。俺身上小繫ふべし。
 奈何のせんと種々小案廻りし辛うして一計と念得らるる。面と知らびて正直小
 のみず。案小相違の令姪女の机斐令愛を以て換る手段一驚小餘あり。さるる
 らるる急疾く。俺們報もせど却也小開謀と。助けて共小在下までふ。かゝる危難
 と係られらる。這倉貴方の罪とのべ。恁ども律這首小及びて縦計貴方
 と就盛と刺交へて死すとも。管領父子も欺きて恥辱と拿きて事漏る。世の
 人口小膾炙らるる大い家の瑕瑾とあらべ。されば目今京都へ稟して貴方の
 罪を以てべきとぞ。恁ども令姪女を四引出て一日うとも。赤阪の館へ迎
 入る。違勅違説の罪ともあらまじ。尚這入の左馬殿小商量して料理んといふ

正直手を捺て。昨夜姪女が違約せし時刺殺して晩生も腹を截んと思ひし
 ども。原來管領并小貴老の。おん面皮も係らんと思ひ且貴老亦既へ既小到
 きて等とこれが勢恚生とも術をて終小借料ひし。て姪女小荷擔して説意と
 蔑如する律ありき。尚這入も然るべき。御商議のひつ。恁らるるひも辞とべらる。と
 と只管勸解と止らるる。就盛も打領き然らば左馬殿小商議らん暫く這
 里もて等とべし。とて奥へ入て持水小會ひ件の由と告保して。き諫てのひらる。正
 直が蠢愚の罪。免すべきあり。他小豫ても知らる。痴呆らる人。さるる。と
 熟く姑摩姫小詐偽とて寔小途方小莫小え。咱女兒とめて換らる。かゝる。鳥
 乎の白痴でいへ。敵手小せん無益と。勿論這回の院宣御説の老候と。晩生と
 暗小議して為らる。訴へ出ら。却也小這方の脱落とあらべき。然る有
 として今急速小結果らる。他も柳管小御先代より。朕近の的とあらる。と

前篇の作者
北島俊俊と
誤て俊雅と
す。且此人ハ
俊雅卿の誤
あり。詳々
巻尾論ヲ
見。如然レ
ども看官既
小俊雅の名
記臆するベ
し。

これハ今誤
隨て更不
改む。其ハ
必するハ
畢竟
小説の擬
名
るべし。

殺し罪の道とぞ。さきへ枉て免し。尚那女兒甘子とハ。要時御館小留
措て睦しき様小管待より。さきへ又姑摩姫も心と放して。這方の機密を窺ふ
り。さきへべ。約莫他の幻術ありて。毎もく。這方の機密と。前知する。先と
超とて。謀畧の敗る。さきへ。他が不意の駒小起して。謀畧を施さば。復又
他小欺瞞すべ。且他が院宣。誠意と。猜ふ。故に其勅書御下文のさき。故に
ハ。今般ハ北島俊雅と。太上皇の印使と。号して。院宣と。把持せ。誠意ハ。晩生事
と。執て。俊雅と。諸俱小立並んで。當城へ。他を召出で。傳へ。倭箇する。駒小法され
ハ。假令假托と。知らうとも。誰小向ひて。訪へ。出さ。然ら。屈て。承えすべ。尙ま。強て
拒まら。道路小奇兵を伏措て。擲拿て。御館へ。送らん。开き。手強くて。擲難く。ハ。
結果て。錦の御旗以下の。東西と。再遍把出。五十日。槌電次が。古轍の如く。兵
と。集る。廻文と。贗せて。老侯より。披露あり。あん。咎有る。さきへ。せん。とも。恠ま。小

倅煩累ら。ある。べ。ら。ぞ。十小八九ハ。成就と。べ。る。甚。る。物と。念。ひ。の。ひ。そ。
さきへ。且。正直ハ。許して。さきへ。氣。る。對面。ハ。後。到。て。他。と。謀。畧。行
む。と。べ。必。急。進。の。さきへ。と。回。り。の。ひ。を。持。永。法。々。小。會。得。ひ。つ。さ。ま。で。ふ。い。ん。ら。
る。さきへ。今。番。の。屈。て。免。ん。後。日。の。倅。も。覺。束。る。と。と。俊。雅。と。も。喚。下。豪
表。阿。爾。梨。も。請。い。末。て。時。小。臨。て。拿。綱。る。豪。奪。る。難。く。も。有。す。と。さ。きへ。ハ
正。直。小。對。面。せん。と。の。久。ハ。就。盛。領。きて。枕。も。机。密。と。耳。語。示。舊。の。客。殿。小。立。出。て。
正。直。小。持。永。と。會。す。ん。正。直。ハ。一。味。地。小。頭。と。叩。き。て。勸。解。る。而。已。另。小。の。由。ら。り。り。
持。永。も。又。面。と。和。ら。び。倅。の。情。由。と。承。り。て。執。念。く。貴。翁。と。怨。む。べ。く。も。あ。ら。ん。と。
姑。摩。姫。と。這。儘。ゆ。と。止。べ。く。も。あ。ら。ん。と。且。ハ。上。の。お。ん。旨。る。れ。ハ。余。後。齊。一。小。商。議。と。
們。が。方。へ。送。ら。ん。や。さ。きへ。甘。子。ハ。晩。生。が。嫡。妻。と。して。久。後。く。秦。晋。の。好。意。と。
翁。と。恭。山。と。仰。ぐ。べ。と。い。ふ。正。直。怡。悅。て。向。後。の。難。義。ハ。知。ら。れ。ど。先。適。表。と。

浪風立び否むべきやうも。説く任小言稟すまが就盛も取善ひて尚云々小
籌策と正直示しし。是亦推辞む事を得む。阿面々々と諾ひて。願
告て宿所小回と妻木石を喚出て。箇様々々と告示せば木石の覚束るまど先
難の道まてれば丈夫の恙るを祝しく。稍安心を為さう。持永も為方かく。赤坂小回
末て後の籌策の與と念へ。強て然や氣さく紛や。其夜又も勉強して。首子が臥房
小到り。せ首子も浦風も持永も今朝の氣色小肝を冷。向末怎小なるゆやんと。密
やう小譚合て心と痛めて在る小案外小持永が心解く来小まど。怎小為了欬と。旁
小の恐懼しき思へども先開心をとり。小管待て大く歡喜び。暗々小河備へ消息
して正直夫婦小律由を細々と報遣ね。恁やう。就盛の言田譽九郎小机密と言
言め消息と齎して有。次第と脱もる。満家小注進。又自己が計策をも委女く
報差さう。ま。満家听て大に駭き或へ怒とど為術もま。ま。心ぎ豪表俊雅と

喚集へて件の次第を聶き告む。俊雅は聞く事毎小驚歎。さて逞しき女もとて
不慮吐息と吻をま。有繫の豪表も尿と果約莫思僧が調伏の法。凡僧の
為る所と同一と。龍樹井より傳子。真言秘密の奥妙小役優婆塞の
神呪と加へて傳來せる修法も。祈と必然應驗ある。一遍も愆とらひとね
と。甚麼や。く。姑摩姫。那庚帖と掠換。這へ正直が疎漏。されバ
只管合色色の儀。整ひていへども。庚帖の本命錯ひ。これ竟小甘子と令即君
小祈と隸系ら。案外されど併法験る。れ。ひ。の。放。這上へ貧道も
那里へ。越え外。遊佐氏と幫助けて他幻術と折くべ。されども既小貧道
嚮日那宿所小去て會さるるも。面と對せん。妙ま。這へ遊佐氏の計議
は如く。今番の北畠殿。劬勞さ。御下向。て。倦るべ。と。小俊雅
小及び。開の安き程の。出仕小間暇あり。され。と。満家引取

その究竟の婢こそめ。這屬將軍家住吉へ御代奉と立らるるおんおん
 事々。御使の人を選ぶべしと仰出されしは幸貴所へ溜紳家のあ
 るるれ指泰らせん。倘仰附らるる。塚浪華遊覧の婢と。序次小願り
 べし。十日十五日のおん暇の故障あるべきるらねば其間小河内へ立寄
 せし。と料たるべし。さるふても姑摩姫の少女さても侮でがと必尋思
 らひく。他小雌伏しるる。といふ俊雅領掌し。その心得ては侍ら件の上意
 と所ハ急端小出立とべし。といふ又豪表も開頃小の貧道も必那里へ奉會
 姑摩姫が術と破るべし。といふ満家歡喜く。犹その計策の概畧と數刻密
 談ふ及びて後各辭して回す。満家のその翌日。鸞九郎と喚出と。就盛への
 回帖と遞す。犹憊と事の意と得きと回し差しぬ。

一鍼と飛くと賢婢強人と扱ふ
 第四十六回

奇遇を感じて忠士既往と語る

さてもやこ。一ちり。正直が回す。後隅屋安次奴隷手作と口出て暗々小
 却説八九の莊院小。正直が回す。後隅屋安次奴隷手作と口出て暗々小
 事情と得きと赤阪の方へ差して那首の動静と覗けり。小那館へ出入と。蔬
 菜の婢と賄ふ。莊客の某甲の手作が知音あり。一。僥倖小欺倚て甚麼とさ
 捜し。とも。持水へ就盛が謀畧小随ひ。媒鳥長総們と酷く禁め。齟齬ひ
 う。梓由と深く包藏てあり。基所の奴隷們へ更不知る者あり。それ
 へ手作の空しく回すと。安次小報し。安次姑摩姫小就と報す。姑摩姫ハ
 これを因て。原来持水就盛們。恥辱と忍びて音もとねへ。必深く騙計するの
 あらるべし。と疾くも悟て。安次垣衣も其旨と瑣言さし。此小由断
 せり。一夜人定とて后垣衣の独立と。廁舎小去て回す。手水鉢小立倚
 て。檜杓と取上手と洗ふ時。思係る袖牆の陰小一個の癖者あり。覆回頭巾小



女中御前 (女中御前)

うたかた

五

五三三三三三



欲奪垣衣而
荷二郎受網

かた

安次

竹客仙傳五車卷三

五三三三三三

面と隠し。身体も鎧甲と着下して。黒く装ひ。奸細の打込物とも言ど衝と寄
て垣衣が袂と把爪を引攫へて去んとするを垣衣眼敏く看外らて咄嗟とづり
身と翻し。把を袂と掉拂へ。透もあらず。再立菟で。手拿小せんと争ふ
餘勢小椽小措る手燭と蹴飛し。黒白も分ぬ星影小垣衣の彼此と身と反し
。衣襟小縫る。鍼一線と抜把て丁と打る手凍の掌中。仙傳微妙の女俠小
受る。狙ハ間小も錯と。頭中の透間と左眼小あつらに打稠と急所
の痛手小一聲叫びて。醫居小僅と平張らう。さきども死ふに至らば足踏直
て衝立上り。腰の刀と見ると抜て音と聚小斬んとて。滅多打小難で廻ると。垣
衣の差違りて再遍打べき鍼もあらず。頭小挿る耳搔の笄と疾く抜把て亦
打出と掌中の違ふべくもいふと。刀持る右の腕小裏徹までみぞ打稠る。這
小怯とて癖者ハ刀と曼哩と採落とて。抗らずと唯ひえ。逃まんとせり。折

しも戦ふる風は音聲も。心と放さぬ安次の物音を聴て岸破と撥起き枕邊小
立る脇差の刀と把てまて出。外戸一枚蹴開きて。樹間と潜りて出會らう小逃んと
背向く癖者が身後の方小走菟と。項髪廻で拽寄つ。足を揚て踢らうと。小
仰さぬ小拽倒さうと。押へて些も争うせぬ。姑摩姫も又音を聴て守衛刀と
腰小帯び手燭と携へ出て来て復一賊ハ扱へらう。とりふ間小垣衣ハ快くも
長押小繫らうらう。早索手操て安次小遞さば。拿と替々と疾薄めて拽居
らう。姑摩姫ハ噪きらう。氣色もあらず。犹彼此と眷顧て今宵の賊ハ一名と看
ぬれど。復一ハ尚小心とて支黨さう。バ开奴と。這方の小庭小拽ゆと。素履
們と起してハ喧囂して詮る。只穏便小料理べし。と。安次畏らうと。
左邊右邊小心と配と。他小怪しき。的も所見ぬ。賊が棄らう。刃と拾上。鞋
小収めて俺腰小帯び。索端と把て拽立つ。外小遠らう。姑摩姫の便室の中

庭小棟居ろ。姑摩姫の垣衣と酷く賞し。鐵擲技と教へる倦む習ひし
 你的手練。日數も経ぬふ上達し。今宵快くも初技小猛る賊と拿へし思
 らふ倍ていと憑し。といへば垣衣畏むて想係るき今宵の厄難。賊の手術の
 あつ的らんと豫て誨ませるひらる。鐵擲技のたつらせば争う脱はれり。即
 陰小依て助り。ハ怪我の功名ふきつらふ。復一即時と撞見と捉へし幸小
 ひとのへば姑摩姫もち點頭き技小誇らぬ。你的謙讓然而こそよのく者上
 と響小五十日植隆光們が夜稠せしその响ハ與聲小殺氣のじ故快くも
 前知しつらるる。今夜の賊あはさる祥々。案小五併から入までふの拘らぬ的
 るる欲先疾仔細と問ぐと。那押居る便室の障子と開せて尚克者ふ
 件の賊ハ左眼小鐵と擲きて昏々と半死半生の体さる。安次ハ鐵と技取り
 又腕先小立つらる。銀の并と抜て。這奴ハ脆くも弱く。こゝに打棄措ハ死のや



せんきての支黨の穿鑿も仕ごう。絆の仔細も知つたれば響小貳アとる神草
 と以て今一番活しひら。如何あらんと伺へば。姑摩姫听てらち點頭き你的料簡
 最佳し。然れどもき悪漢小。神仙の靈薬と費えの勿体あり。只开煎を水小浸
 し。其水を塗て得る。きても奇妙の験あり。开奴が眼ハ潰れらるべし。垣衣
 开首小も持有るといふ小垣衣意得て守護符袋小収めらる。活人草と採出し。茶
 碗小清き水を汲て。那神草と二遍三遍押浸。安次ハ賊頭巾と捨投棄て。熟と着
 てのり小年紀ハ四十小迫る。色黒く頬骨荒て處々小舊瘡の癩あり。一癩
 へき面補るふ。不思議額小金印あり。二字の形と露せり。痛瘡小弱て頭と
 低る。願と引奉て燈の下小差照。垣衣ハ甲斐々々しく。流るる血汐を紙以て
 拭ひ件の水と瘡口小塗まら。つ賊が顔と。孰視せらる。半晌ろ。徐々や
 那靈水と臂と眼小塗まら。神草の奇特掲焉。立刻小痛苦と忘れ

一や。那賊ハ已ハ復アト。頭と拾げて人々と左見右見を。安次ハ聲と厲ハ
 礮と親視て。這草賊奴ガ大胆なる。去秋五日。植隆光。多勢と率て夜稠也
 小も。姫上のおん武勇。一箇も漏さず誅せられ。開由知らるるありと。忘る未
 して虎の鬚と。曳んとらるる。但一人頼まれ。飲真直小稟。白状
 せし。やと責問して。件の賊ハ阿面。色。恚。之ハ甚。匿人。這莊院。去
 前番。小倉宮。賜。一千金の有り。听。其と。賊人と。竊入て。処。小。美
 婦人の只獨。厠舎。去と。着。着。立地。法と。換て。檢。攫。娼妓。小。賣人と
 思。外。ハ。僕。這地。小。参。一。四。五。日。以前。争。う。人。小。囑。と。願
 かん。慈悲。と。命と。助け。へ。と。勸。解。と。安。次。肯。ら。る。懸。心。と。賠。話。と
 免。と。思。ふ。愚。昧。と。者。と。戎。具。小。身。と。固。り。て。便。室。近。く。入。る。と。人。の
 小。垣。衣。女。と。捕。ん。と。も。財。宝。小。の。眼。と。掛。る。草。賊。と。等。し。と。好。々

いつ。何時。ま。白。状。ハ。さ。ま。だ。お。ろ。と。恚。て。も。寔。を。吐。と。と。腰。の。鉄。扇。杖。把。て。立。見
 と。と。と。と。と。姑。摩。姫。ハ。要。時。と。推。禁。め。你。の。料。簡。と。夜。中。の。叫。聲。高。く。し
 て。聊。不。妙。の。處。あり。奴。家。が。直。小。問。と。那。賊。小。打。向。の。詞。と。和。ら。げ。て。い。ひ。さ。る。ハ。や。だ。れ
 盗。賊。遣。小。所。け。和。郎。ハ。必。囑。と。る。人。の。小。疑。ひ。は。緯。の。始。末。と。包。む。と。真。直。小。稟
 せ。し。と。命。と。助。け。も。と。一。尚。又。偽。と。陳。と。今。立。刺。小。斬。て。棄。ん。快。と。稟。せ。と。小
 間。小。垣。衣。も。詞。と。係。て。和。郎。ハ。奴。家。と。見。識。と。と。奴。家。ハ。和。郎。と。見。識。と。今。より。十
 三年前。の。秋。九。月。の。某。日。小。陸。奥。國。白。川。の。関。と。渡。瀬。と。の。間。と。楯。鎖。と。い。ふ
 支。村。の。産。土。神。祭。の。試。集。の。日。小。七。才。小。り。し。女。子。と。拐。う。て。越。後。國。へ。賣。ん。と。し。つ。る
 小。あ。る。と。い。ふ。件。の。盗。賊。ハ。呆。ろ。ま。で。小。大。小。駭。き。現。の。と。ま。へ。が。さ。る。緯。の。き。開
 せ。し。と。知。る。と。向。小。垣。衣。と。當。下。越。後。の。不。毛。山。に。麓。小。到。と。和。郎。と
 欺。き。樹。杪。小。攀。登。と。る。ハ。奴。家。ハ。登。時。旅。の。士。人。の。伴。當。夥。多。跟。隨。と。る。小。奴。家

難義と報し。和郎云云。陳せし。尚許さる。追捕稠拿んとせし。和郎逃んとし。葛藤小足脚と膝とて千尋の谷小墮す。来り又怎ゆ。命助と這頭。来り今枕悪行の改らざりて。這り館へ。竊入る。甚麼事ぞ。詳々稟上。奴家。和郎が故依て。生做る。父母の命。尚種々の災厄と脱して。這里小御座と。姫う小奉仕。珠る。仲。恩と被アと。身今安き。小月。心の愁。一日片時も。絶る。根源。ハ。食是和郎が為。業。當下看識。和郎が顔面。年紀。老て。癡。見紛。件の盜賊。酷く慚愧。色見。頭と低て。黙然。と。得せ居。緯の奇遇。姑摩姫。更。安次。駿。垣衣。向。原来。你。這草賊。幼き時。拐。陸奥。伊勢路。未。人。欽。今宵。在。下。知。况。て。姫。知。食。人。は。苦。理由。

采女曲小出。て。疑慮。先晴。姑摩姫。誑。去。稔。の。夏。復。帰。来。已。折。小。垣。衣。和。女。郎。を。伴。ひ。故。郷。の。伊。勢。の。道。を。伴。侶。と。の。ひ。然。有。養。家。の。石。倉。氏。結。髪。の。妻。る。當。時。准。盈。夫。妻。の。義。死。小。忌。服。と。重。受。の。謹。慎。を。吾。侪。も。さ。う。と。道。ぬ。る。と。想。ひ。ふ。更。又。故。意。素。生。と。向。ひ。乳。を。一。稔。の。後。復。一。が。服。の。鬘。か。が。媒。約。して。婚。姻。の。儀。と。結。せ。ん。と。暗。小。の。期。を。等。し。小。思。繫。き。復。一。も。詳。く。得。知。你。の。素。生。陸。奥。白。川。の。人。と。數。百。里。の。山。海。と。阻。る。這。漢。小。拐。と。俤。の。抑。怎。る。縁。故。ぞ。報。て。も。苦。し。所。て。疑。念。を。晴。ま。原。是。你。の。什。麼。る。人。と。向。ひ。垣。衣。畏。り。且。の。蓋。る。面。を。拾。て。い。ん。と。す。先。身。満。未。る。泣。水。を。混。て。聲。を。吞。り。去。稔。の。夏。より。憑。方。も。身。と。人。か。す。く。も。思。さ。れ。て。お。ん。身。邊。近。う。使。り。を。ひ。且。文。学。より。武。藝。ま。で。誨。る。

御鴻恩の山海よりも高く深うり。されば仰の侍もどとも。妾が素生と委曲所
 え上べきり多う。些少憚るうもあう。假令亦听え上うとも。適来猛可小
 便もさるまじ。一日二日と怠惰らうち小稟上べき序次もあう。今日まで听え
 たらぬ。御心と阻らうとや思さま。最も恐くこそひへ。俾長くとも一遍
 妾の薄命の顛末と。聞食て賜へ。妾の原是新田の庶流。脇屋右少将義
 隆朝臣の家臣小館大六郎英直のひらる者の女児と。名どが信夫とやうし
 侍り。往應永六年の秋。少将陸奥と落るる時。父英直の主君の附託遁
 小路をて尚陸奥小田と。関と渡瀬の間を。楯鎖といふ處小身を躲し。
 姓名と変形白と竄し。時の至るを等ひひし。妾が年紀七才なり。秋。丹處
 の産土神に祭の前夜。独外小出侍り。と。丹する男が抱拳て。物見させんと
 肩小掛く。その儘遠く走り。さて介後の箇様々。任心々小ひひきとて。越後

大河内訓て
 オカハチと云
 オホガフチ也
 あがまねども
 姉前編の
 まゆして金更
 小改さうり
 上小云うが

へ去て賣人とせり。路。不毛山の麓を。箱城守延小救ひ。それより伊勢
 へ侶とて。竟小守延が親女とあり。又尔後小守延の主君と諫めて退け
 らる。五柳村小住ひ。木造泰勝。俺身小意慕し。豪集し。大河内小在
 以頭雅主よ訴へんと。守延が行うと。泰勝が遠矢小射せり。俺身の泰勝
 が二十日の別荘小因。泰勝小従のり。泰勝怒て逼り。故小樓より落
 て自殺せし。達小六助則が。一旦義侠の執腸。道路小國司小直訴して。那里
 小来り。泰勝と捕へ。仙丹と以て。獲生せし。且。開小六の陸奥。七才の時
 小離。另うし。義兄とありし。脱漏も。説出。聲と消めて。強て藏さん。う
 こひと。匿ひ。きり。小侍と。姫入。南朝の忠臣。おとす。強て藏さん。う
 も。侍。那。達。小六と。原。末。脇。屋。右。少。将。の。父。英。直。小。遺。囑。せ。且。幼。息
 也。侍。耳。語。告。て。其。後。小。將。の。底。倉。の。温。泉。を。藤。白。安。同。と。與。小。擊。と。り。以

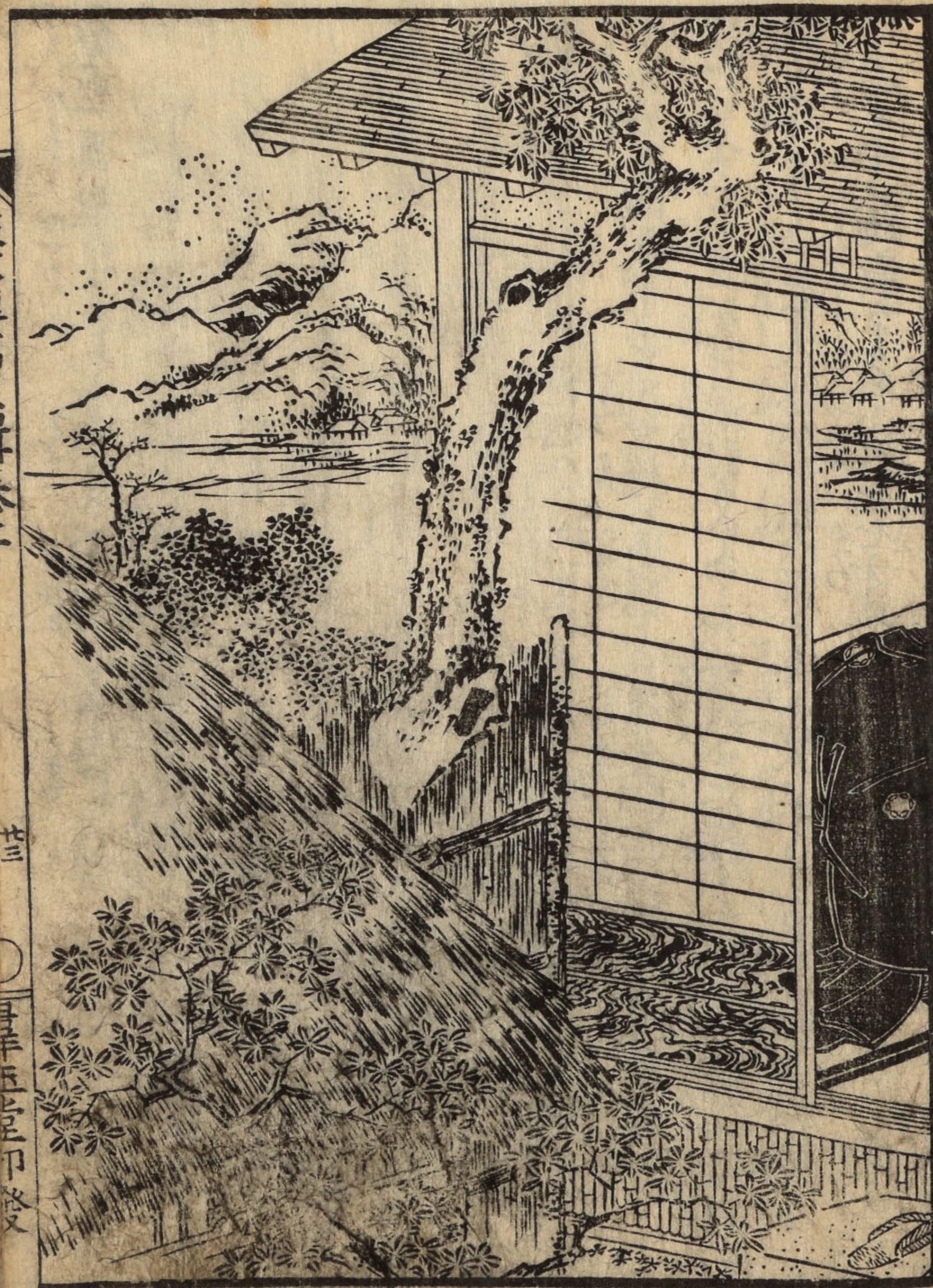
ひてふか そのうちさかのう して うまひの ちとてや 二つう
る。英直の當下陸奥と山出て。假名川の客店にて死す。時母屋小遺託
て小六と藤澤の豪俠野上著演許差し。白紙の帖おろ。そと著演引
拿て身小替て養育せし。且著演為人福良長者と喚し。又小六
が入水と示し。出て底倉へ赴き。少將の仇讐する藤白隼人が。一類残黨を
結果あり。客店の目四郎が義侠其子楯取庶吉が来歴まで。要と摘て脱
かく話で。尔後小六が教誨小因て去給の四月上旬小伊勢國を立去て。相摸の
藤沢へ赴んとて。阿真將曹が鎌倉へ年始の佳禮の使者おゆく。便船と養
母老樹庶吉們と。諸共志摩國鳥羽港より出帆せし。一五二十と細々と話説
し。が。姑摩姫の聞き。涙毎小感慨大なるぞと。話切る處小至る。或は怒り
或は悲し。或は悼む。嗟嘆の聲と絶え。安次も頻小嗟嘆し。捉へ賊が索
端と旁の櫃樹小繫扯。姑摩姫小一揖と。椽側小前より。垣衣小向ひく道

や。原来你の稻城主の産子小あむむとて。脇屋殿の老臣。館氏の女子より
る。次。這の今始めて承りぬ。那館氏へ新田の一族大館主の庶流小脇屋殿の
御内小する人のうと。豫て伊勢を聞き。現江湖上の栄枯盛衰想ふ。小
肖以薄命こそ回も。勅し。とて。這後の話説。在下代を票上て。在下既
小票し。如く。養母が携子の弟小家と嗣せんとする。色と看て。身と退んと。惟ふもの
う。另小輕卒小召出さ。未一給も立ぬ。間小寸功。うもあらざれば。這儘小
退んも。素餐の罪。ける。小非。と。案煩ひ。比隊長。阿真將曹の國司
満恭卿の命也。鎌倉の管領家。持へ。年始の嘉儀を演ら。使者と被。と。を。を。
在下も夥兵。と。と。晋物の韓櫃の宰領小隸。ら。同僚の者五六名と。那韓
櫃と護。鳥羽の港より船小乗。此餘英真氏の家礼も六七名あり。然。小これ
る。垣衣女。母の老樹と楯取庶吉と。喚。那達氏の扈從と共。這船小便

船せられぬ。勿論男女開別の事。這人々の艦の方。一間と苑と在る。正可
小面の張せり。那の稻城の母女と疾くも這首小識ひひき。抑這稻城石磨丸
一隊の長より。在下が親父石倉蜂六。大和の宇陀より弓輕卒小召出され
て。伊勢の多氣へ移住し。當下より。稻城大人の懸兵小隸属らまへ。蜂六は
平素小那家へ立入。内外の薄まで裏心る。就ては在下が七才より
多し。時々携て去る。守延夫婦甚く憐れ。這垣衣の信夫女が。在下と同稔
る。不遊戯敵手小せり。色葉字の始より。書とも誨へ籍とも讀も。晝夜
習りせられ。形の小蚯蚓書とも記憶てひひ。さて介後。在下が生長は
る。隨ひて弓馬槍刀の藝と教へ。或は六韜三略の一端とも講諭されて。只子の
一般最愛まされ。佳きとも垣衣と十歳許の响より。男女の男と正ま
て相見ると。許されど。疎々々ひひ。思係る。稻城大人の忠言耳達

ひつ。國司の勘氣と蒙りて。五柳村へ退隱し。多氣小在。どるれ。蜂六も亦
他の隊長小属ら。自然小疎遠小成。佳きとも在下の父母小等。父大恩
あり。官長と且師と。鹿畧と存せ。況て多氣より退るも。あは。間暇あり
折ると。必五柳の僑居と訪て。薪水の要事と便。傍ま又听漏せ。文武の教
諭と乞ふ。守延酷く志とや感せ。れ久。或日在下と雨室小招き。想ふ。和主が人品
骨法輕卒の兒小似る。非ど。又其才の睿敏。今世多多く得難し。是
以多氣小在。一日。文学武藝と学せ。小程も。上達して。殆俺們及
び。然る。最愛。往々世評と探。听。蜂六も。実子小あ。て
楠家の浪人隅屋某甲。落胤。といふ者あり。原来俺們が眼力の。大違
へ。楠木も。隅屋といふ。素より一族の長臣と。既听。さる
有き。然る。家系も卑。と思ふ。小着て。議あり。和主も。豫て。知。如く

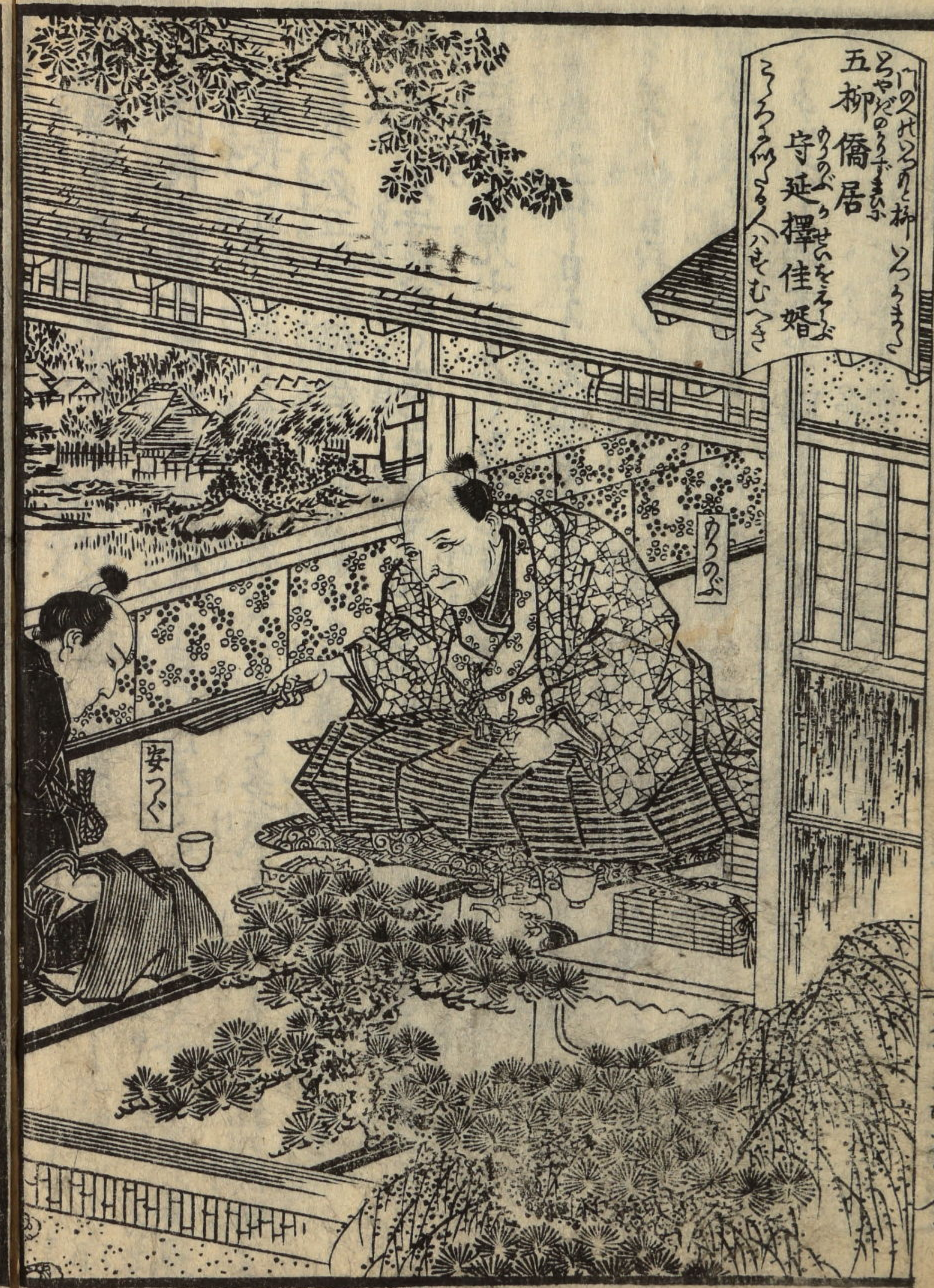
此回安次が
話説の中の
往事と序次
る處を小見
ひ説出難き
如く。其
も交。其
筆。省。小
説の法。小
者官情態
の。各
む。事。か
と。利



五柳橋居

三

守延擇佳婿



五柳橋居
守延擇佳婿

守延擇佳婿

守延擇佳婿

俺小一箇の女子めど未きるべき婿もあ。巳小嫁とべき期るれば。這首よ
 りも。那首よろも。媳小せん。婿小成人との入者死非と。今世の薄情も。文武
 忠孝兼備して二心なれば。丈夫の一個。未者たるは。和主の今こそ輕平な
 と。這戰國の世も生とて類少る。老実人なるは。竟ある名と。奉家と。與
 君父小忠孝と盡きん。婢鏡小哭して看る。像。然と。女兒信夫と。和主が妻
 小娶せんと。判妻老樹も商量せ。小他も和主が幾年の志と感ぜ。異議小も
 暨が。諾ひ。約莫。誓姻へ。人間一生の大事。うれば。只赤心の賢愚と撰ひて。強
 て。良賤と論ぶ。況や俺へ。退隱して。葛荒小侶。庶人と。和主が職
 役との。承引の。あ。蜂六小示譚して。近き小。這議と料理
 人と。道と。在下へ。思ひも。依の師の存念小。呆る。半响。徐小
 て。稟も。助敷る。小可と。七才の歳。らん。眼と。掛ら。文學。武藝。大

え
 小と。示教と。賜へ。聊手足の勞と。以て。志と。看え。す。れ。ば。と
 令愛を。賜りて。婿と。せん。と。ま。仰ら。骨小刻。辱。九の世と。更。と。も
 忘遺。を。る。べ。く。非。と。有難。と。と。ひ。る。れ。然。あ。と。も。這議。か。う。の。一。向。小。押
 免と。衆。と。べ。開。故。の。知。せ。め。像。小可。が。二才の。瞬と。や。人。実父の。託孤の。命
 と。受て。忠義の。與。小可。と。襦袢。の中。より。骨放。ち。て。所。縁。小。着。て。蜂六。許。差
 一。う。と。小可。も。頃。日。小。所。知。う。然。と。も。蜂六。の。些。も。これ。と。現。多。年。小。肯
 と。慈愛。と。親。ひ。う。恩義。深。く。実の。父母。も。勝。と。と。ま。と。急。で。孝養。と。尽。と。ん。と
 想。ふ。處。不。去。匡。き。内事。の。碍。あ。故。と。小可。と。疎。ん。と。う。然。と。小可。が。身。の。浮。沉。の
 明日の。焔。も。料。と。匡。後。計。普。通。の。縁。譚。う。と。固。辞。と。き。時。候。と。況。や。大
 恩。一。方。と。ぬ。名家。の。息。女。と。賜。と。と。這。患。難。の中。や。と。勞。苦。と。係。ん。勿。體。と
 き。小。極。め。て。共。小。住。難。き。一。條。も。あり。且。世。間。の。人口。小。繫。と。名家。の。瓊。小。事

あつた恩と讐と報ゆり小同じ。まじは這義いん言違ひく。假令即勘當と被る
 とも。決して領掌致し難し。許りあり以と推辞しども。稻城大人の頭と左右ふ
 打掉てその又和主遠慮は過う。従令内事小障碍ありて。怎う辛苦及ぶ
 とも。夫とる妻とるふ。开と厭ふべきやありゆ。信夫も往を教訓しむ。艱
 難ある克堪つし。且又縁と結ぶとも。必稻城の名跡と継て異姓と名生口といふで
 いる。この又另小仔細もあはば。枉て這意小後ふべし。と再三再四説きく。在下
 強面肯が。強て過辞して回り。分解る。継母の意味と猜と身と退んと
 想ひ。事のあれば。と知。稻城大人の尚とま。小説と。問小料ら。茶
 勝が。非道の毒手小身と亡。當下在下悲憤不堪。送の澤甲乙と
 力と勤とて。管。孰と案ずる。稻城大人の横災の全。次無賊の所為小あ。む
 往日豪奪せらる。信夫との。在處と知て。訟んと。大河内へ出立。折ら

されば。仇讐言と。外小覓。不及。併契据。下。難し。什麼
 おも。して。契驗と。得。在下。國司小訴へ。信夫との。奪復。助太刀。仇撃の。夏
 と。願。除。非。中。流。小。舟。横。り。徒。所。も。容。ら。ず。師。恩。の。與。小。單。身。か
 り。とも。泰。勝。と。狙。撃。て。運。拙。く。斬。死。せ。ん。と。想。ひ。つ。あ。る。と。仕。の。途。の。俺。も。も
 り。と。鈍。や。月。日。と。過。ま。向。小。立。刺。達。生。の。義。俠。む。泰。勝。へ。捉。へ。られ。信。夫。との。の
 還。され。ま。ど。仇。撃。の。一。條。免。れ。せ。ぬ。と。听。て。本。意。さ。く。想。ひ。折。と。得。て。身。退。く
 時。至。ら。ば。他。郷。へ。出。て。泰。勝。と。搜。出。し。先。討。捕。て。師。の。大。恩。と。報。じ。し。と。這。首。小
 想。ひ。の。立。ち。か。ら。身。と。も。心。小。任。せ。兼。て。稻。城。一。家。の。達。生。が。指。揮。小。因。て。東。の。方。へ。旅
 立。り。由。も。英。虞。氏。の。話。説。小。既。く。听。し。と。在。下。も。旅。装。小。暇。さ。ま。む。五。柳。の。宿
 所。小。去。て。一。臂。の。力。と。盡。と。り。得。ざ。り。ま。す。本。意。さ。く。と。查。し。ま。す。信。夫。の。情。由
 て。い。へ。ば。那。船。中。小。他。見。と。憚。り。通。着。倚。て。落。着。の。地。名。も。听。ま。や。れ。れ。と。折。り

あらう んと不知負^へも。舳^へ先^{さき}の方^{かた}ふひ^ひぬ作者^{さくしゃ}云^い這^{こゝ}話^わ説^せ未^ま盡^{じん}後^ごも。楮^{すし}麩^ぼの定^{ぢやう}限^{げん}
才已^い不^ふ充^{ちゆう}也^や。卷^{まき}と更^{さら}て第^{だい}四^し卷^{まき}四^し七^{しち}回^{かい}の跋^{はつ}端^{たん}を分^{ぶん}解^{かい}了^{りやう}と听^き録^{ろく}

平惣

開卷驚奇俠客傳第五集卷之三終

治

一多
月か

鳴
吟
吟
吟
吟
吟
吟

は
し
な
み

時
き

(Faint handwritten notes)

